

令和3年度 第3回学校運営協議会 議事概要

- 1 日時 令和4年2月14日(月)
開会 13時27分 閉会 14時58分
- 2 場所 岡山県立玉野高等学校会議室
- 3 出席者 委員 五老海 正 登 委員 東 り え
委員 稲 田 秀 知 委員 福 本 泰 久
委員 恵 谷 栄 一 委員 山 崎 裕 正
委員 大 倉 明 委員 山 根 一 人
委員 田 中 久 美 委員 山 本 育 子
委員 豊 田 啓 介 委員 多 田 一 也
- 事務局 教 頭 橋 本 文 彦
主幹教諭 守 屋 泰 志
指導教諭 竜 門 巧 、 岡 本 崇 志
事務長 立 野 弥 生

4 議事の概要

開会

(1) 説明

事務局担当者から、生徒・保護者・教職員対象の学校自己評価アンケート結果について、学校経営計画及び目標達成に向けた具体的方策の最終評価についてそれぞれ説明した。

(2) 協議

令和3年度の最終評価について、事務局が示した原案について協議し、原案どおりで承認された。

(3) 意見交換

次の2点について、各委員で意見交換を行った。

○ 令和4年度学校経営計画について

- ・ 「いじめ」は、学校教育での人権問題として最も大事。経営計画や自己評価アンケートでこれに触れておく必要があるのではないか。
- ・ 31%の先生方が勤務負担を感じておられる。地元の専門家に話をしてもらおう等して生徒に興味付けをして、先生は本来の教の指導に注力しないと負担が大きすぎる。ペースチェンジが必要である。
- ・ 基本をしっかり身に付けて応用力のある人間にどう育てていくか。「指示待ち」や「我慢できない」を教育の中でどう変えていくかを考えることが大切ある。「基本」や「考え方」「人として必要なこと」を入れていくことが、いじめの話にもつながっていく。
- ・ これからの学力観では、学力には認知の部分と人間力の部分の両方があり、両方とも伸びていかなければいけない。

○ 令和4年度の学校運営協議会の活動について

- ・ 学校の生徒参画型で、制服等を作ろうという企画を全国でやっている。服飾関係に興味がなくとも「自分たちで作った」というところに主眼を置いている。
- ・ 中学生のチャレンジワークが品出しならば、高校生は企画やPOPを考えるとかが良いのではないか。
- ・ 見学なり体験で来られると、どうしても優しく接してしまう。学校がどこまで望むかによって程度が変わってくる。そのあたりを明確に示した上でぜひインターンシップに来てもらいたい。
- ・ 「普通科の高校生が市役所へ来る」という場合、どうしてもお客さんのような対応になってしまう。「市役所とは」という業務内容の説明はできる。
- ・ 人口が減少する中で、中学生・高校生のときに地域に関わっていないと、進学で関東や関西へ行ったあとに「玉野市へ」という気持ちが育たない。早く手を打たないといけない。一日居させて、色々な部署を回して「見て感じる。あいさつをちゃんとしてるだろ。色々な人が来るだろ。」が良い。
- ・ 高校生も感性や琴線に触れるようなことに魅力を感じている。自分が受け入れられる体験を地域がするのは良いことだ。
- ・ 地域・行政・企業それぞれが何をやったら今後ステップアップでき、良い人材を作れるのか、学校と連携して協力しながらやっていく段階ではないか。

閉会